

⑩ 五年 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の 考えが伝わるように書き表し方を工夫する	
名前	
年	組
	番

丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活をおくることができるように、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことにしました。次は、丸山さんが書いた【文章の下書き】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

丸山 理子

一人一人が責任をもってかたづけよう

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にウ積み重ねられています。かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、エげんいんなのだと思っています。オその他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづければ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。

きちんとかたづけることが大切ならば、そうじたん当の人などがかたづければよいという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

遊具だけではありません。そうじの道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができますと思います。

学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためにも、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

【西田さんの話】（遊具置き場のそうじ担当）

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることもあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。



西田さん

⑩ 五年		
目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する		
名前	年 組	番

丸山さんは、―――部の「そうじたん当の人などがかたづけければよい」と考える人を説得するために、【西田さんの話】を用いて【文章の下書き】の―――部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 「そうじたん当の人などがかたづけければよい」という考えに反対する意見と、その理由を書こう。
- 【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内で書くこと。

※◆の印から書きましよう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましよう。

◆しかし、遊具置き場のそうじは、かたづけで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たん当の人だけに任せると大変なので、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

学習指導にあたって

指定された部分を書き直すので、「しかし、」から書き始めることを確認ましよう。文末にも意識をもてるように促ましよう。
 また、これまでの取り組みで「なぜなら〜だからです」という理由を述べる文型で表現することに慣れてきました。次のステップとして、理由に適した内容であるかを考える場面を設定ましよう。ここでは【西田さんの話】から引用することになります。